

川 のと かなざわ かが

第二次世界大戦で父を亡くした遺児らでつくる金沢市遺族友の会有志が、五千人を超える眞人が戦死した激戦地フィリピンへ、学資を送っている。学ぶ意欲を持つ恵まれない子どもを支えることが、現地で散った父の供養につながるの思いから、十一月にも現地を訪問し、子どもたちと対面する。

「養に」学資援助



金沢市遺族友の会有志
11月にも現地訪問

ぬまで援助を続けたい」と話している。

二人は昨年六月から金沢市内の福祉支援団体「希望の橋の里親制度を」利用し、フィリピン・ミンダナオ州の「マニラ」に訪問する。

眞人 5000人超戦没の地

子どもにも学ぶ機会を

頭蓋骨の振動で補聴装置



先端大・鶴木助教考案

北陸先端科技大学院大情報科学研究科の鶴木祐史助教は、耳が聞こえない人との音声コミュニケーションを支援する新たな補聴装置を考案した。頭蓋骨の振動が直接内耳に伝わる「骨導音」を利用したもので、特性を研究し、これまで以上に音を聞き取ることができるといふ。高齢者や聴覚障害者との会話のほか、工事現場など騒音環境下での意思疎通にも役立つと期待される。

装置はヘッドギア型で、頭頂部に骨導音を拾うマイク、こめかみ部分には骨導音を届けるスピーカーが付いている。人間が普段聞いている音は、空気を伝わって外耳から中耳、内耳へと到達する「気導音」。一方、「骨導音」とは例えば歯をかみ合わせた時にカチカチと聞こえる音のことで、外部雑音の影響を受けにくい。録音した自分の声が普段と異なって聞

「骨導音」を利用

こえるのも骨導音が混ざった自分の声を聞き慣れているためだといふ。外耳や中耳に障害があっても骨導音なら聞くことができる。このため補聴器などが商品化されてきたが、骨導音は気導音に比べて明瞭度が低いため、よくもって聞こえ、高い音が通りにくいなどの難点があった。

鶴木助教は、学生の協力を得て気導音と骨導音を波形で分析し、その違いからより聞き取りやすい骨導音の再生に取り組んできた。この研究は昨年度の矢崎科学技術振興記念財団(東京)の特定研究助成にも採択され、現在は骨導音を気導音並みの音質に回復する方法の確立や、骨導音から気導音に変換する単語

骨導音を利用した補聴装置の開発に取り組む鶴木助教(左) 先端大

聞き取りやすく音変換

「骨導音」を利用した新たな補聴装置は、耳が聞こえない人との音声コミュニケーションを支援する新たな補聴装置を考案した。頭蓋骨の振動が直接内耳に伝わる「骨導音」を利用したもので、特性を研究し、これまで以上に音を聞き取ることができるといふ。高齢者や聴覚障害者との会話のほか、工事現場など騒音環境下での意思疎通にも役立つと期待される。

のデータベース作成を行っている。

鶴木助教は「この装置でより聞き取りやすい骨導音を提供できれば、情報のバリアフリーに大きく役立つだろう」と話している。

125匹が品格競う



審査を受ける日本犬 金沢市の県健民海浜公園

日本犬保存会の二〇〇七(平成十九)年度春季 第九十四回石川支部展覧会(北國新聞社など後援)は一日、金沢市の県健民海浜公園で開かれ、小型系若上仁市さん(富山県)の「四共丸」、中型で大家と志明さん(かほく市)の「翔峰女」がそれぞれ優勝した。

生後二カ月未満から八歳までの百二十五匹が全園から出場し、毛並みの良さや品格を競った。小型の県内最高賞には清水健一さん(野々市町)の「黒秋女」が選ばれた。会場では、能登半島地震の義援金が集められ、

「金沢の文化向」

秋元21世紀美術館

金沢21世紀美術館の新一任館長に就任した秋元雄史氏(写真)は二日、北國新聞社(あいさつ)のため訪れ、飛田秀一社長と懇談した。秋元館長は当面、新事業に着手することよりも従来の路線を継承する考えを示した上で、